

家庭・学校・地域の 新たな連携・協働をめざして

大口高等学校

以前に比べると生徒は少なくなってきたようですが、生徒たちはそれぞれの夢に向かって頑張っています。今年度は、ようやく学校の教育活動やPTA活動もコロナ禍以前に戻しつつ、家庭・学校・地域の新たな形での連携・協働に取り組んでいます。

PTA活動について

大口高等学校PTAは、PTA会長を中心に、総務部・研修部・生活指導部の3つの専門部を設けて活動しています。

総務部はPTA親子ふれあい清掃など環境整備を中心に活動をしています。PTA親子ふれあい清掃は毎年8月下旬に行われ、生徒・保護者・職員が一緒に校庭や校舎周辺の清掃作業を行います。特筆すべきは、同窓会も協力してくださることです。昨年度は8月20

日に行われ、多くの生徒・保護者・職員とともに汗を流しながら清掃作業に勤しみました。

研修部は、PTA新聞を作成・発行しています。以前は、上級学校への研修視察も実施していましたが、コロナ禍やオンラインでの学校説明会・進路相談会等の説明会の多様化もあり、見直されました。

生活指導部は地域行事等の際の校外補導が中心となります。昨年度は地域の夏祭りも復活し、校外補導も実施しました。

いずれの活動も、PTAの協力を得ながら充実できたと感じています。今までのよ点は継続しつつ、時代の変化にも対応しながらPTA活動を推進したいと思っています。

特色ある活動

大口高校の特色ある活



高校生マルシェに参加

動としては「総合的な探究の時間」があります。この授業は地域の活性化を柱に据え、生徒自身がテーマを設定し、調査研究を行います。その成果を踏ま



「大口高校ふるさと歴史講座」の開校式
あいさつをする別府PTA会長

えて、イベントの企画・運営や商品開発等に挑戦します。コロナ禍で、いろいろな行事が開催できなかったことから、地域に元気を」ということでダンスイベントを企画して実施した生徒もいます。

他にも、美術の得意な生徒が店舗の外壁に伊佐の風景を描いたり、音楽の得意な生徒たちが地元のことでも園に出かけてアニメソングの演奏会を開いたりしました。昨年度は、伊佐米を使用した「大口高校米（マイ）クッキー」を開発し地域の洋菓子店の協力を得て、販売までこぎつけました。販売においては、生徒の家族も販売を手伝ってくれました。保護者が関わることで保護者同士の繋がりも感じることができました。

新たな取組

昨年度の新たな取組として、「大口高校ふるさと

と歴史講座」を8月に開催しました。この講座は、大口高校・PTA・同窓会が共催し、講師には本校卒業生を中心に伊佐市の歴史（考古学）分野において第一線で活躍されている先生方を講師にお招きし、全6回シリーズで実施しました。中学生から90歳まで多くの幅広い年齢層の受講者が熱心に講義を聴講し、大盛況に終わりました。「ふるさと歴史講座」を通して感じたことは、地域の方々が大口高校を地元の学校として注目してくださっているということです。

更に地域に愛される学校を目指し、PTAを含む学校が地域への連携・協働を積極的に行うことが大切だと実感しました。今後もアイデアを出しながら、新たな形での家庭・学校・地域の連携・協働を模索していきたいと思えます。

（教頭 岩田 裕晃）

本校の歴史は大正11年の旧制大口中学校開校に始まります。この大口中学校と、大口高等女学校が、新学制実施により昭和23年に統合されてきたのが男女共学の大口高等学校です。

本校は令和4年に百周年を迎えました。政治や経済をはじめ、漫画家 俳優などの芸術・文化の分野でも、多くの卒業生が活躍しています。豊かな自然に囲まれた学び舎で、「剛・和・新」の校訓のもと、学校行事や勉強・スポーツに充実した高校生を送っています。